

毎週木曜掲載

# 教育



ロボット競技の全国大会に出場する「がじゅまる」と「Team RK Brothers」のメンバーら。18日、南風原町のサンエーフカザンシティ内

## 「正確性向上」九州勝ち抜く 県内2チーム レゴロボ全国大会へ

ブロック玩具を使ったロボット競技「ファースト・レゴ・リーグ（FLL）」の全国大会（2月12日・東京都）に、県内の小中高生でつくる2チームが出場する。南風原町のサンエーフカザンシティ内にあるレゴプログラミング教室で学ぶ8人で、昨年12月に福岡県であった九州大会を勝ち抜いた。全国大会に向けて腕を磨いている。

FLLは世界110カ国約6万7千チームが出場する世界最大規模のロボット競技会。沖縄からは小学2年生2人でつくる低学年チーム「がじゅまる」と、小学4年から高校1年までの6人の高学年チーム「Team RK Brothers」が出場する。

低学年チームは自然環境や平和を考えてもらう方法を考案し、レゴで作ったモデルと

ポスターで発表した。九州大会ではチームワークなどの良さで最高評価だった。大里北小2年の根原樹さん（8）は「2人でたくさん話し合って作ったのがよかったです」と振り返った。

高学年チームは2分半の短い時間で複数の課題をこなすロボット競技と、プレゼンテーションの総合評価が九州大会で1位だった。プレゼンでは、琉球紅型の認知度向上策として拡張現実（AR）を使った「あるく美術館」を提案。名刺サイズのカードにあるQRコードをスマートフォンで読み取ると、紅型作品が見える仕組みを作った。

リーダーの沖縄工業高1年の新垣翔太郎さん（16）は「全国大会に向けてロボット競技での正確性を上げる」と意気込んだ。  
(高橋夏帆)